

琉球大学学術リポジトリ

復帰準備（対内）（政府調査団派遣等）－防衛庁、
防衛施設庁－(3)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-29 キーワード (Ja): 復帰準備, 防衛庁, 沖縄調査団, 試射場 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43393

沖繩之安保条約論議、主要点

北米局長

参事

安全保障課長

北米課長

経田君、五

「安保国会」に於ける沖縄問題について

昭和三十一・三・十三

安全保障課

安保條約改正當時の衆議院安保特別委員会

本邦の沖縄と安保條約との関係について論議した

こと、その主要な点を取り纏め、以下に通り

3.

1. 條約中の條と沖縄

① 沖縄については、平和條約第3條に於て、米国の所

謂施政権を保持すること、安保條約第5條に於

て「日本国の施政が及ぶ領域」からは除外され

GA-6

外務省

米保 91

2. 安保条約の理由について (1) 施政権を

日本に与えたいという、色々の行動を抑制する

米国の承諾に必要であること、(2) 施政権を保持

することによって、日本が沖縄を国防化すること、(3) 現

在の状態で、日本は、適當な措置をとること、(4) 米

韓、半日、米比條約との関係上、沖縄を安保條約

に入れないこと、複雑な國際的問題を、和議に

あつて、三つの半日、米比、沖縄の安全のため

に、現在米国の全責任を、日本に、日本に

は、日本の福祉と平和のために責任を保持して、

GA-6

外務省

とす。尚、施政権の返還を主張する上は(1)の

理由に照し、政府は認めざる。(昭35.3.25、本

次一考)

(ii) 沖縄の海軍基地の運用を受け得るもの

の程度に、日本は同意する。日本は、この

は、立法、司法、行政の権限の全部にわたる

に、返還を主張する。とす。(昭35.5

7、石橋一高橋保の局長)

(iii) 潜在権は、日本が沖縄を支配する

の自衛権を主張する。とす。又、この

題とす。所謂施政権とは、論議する。

この点については、日本は沖縄に潜在権を主張

する。この点、直ちに自衛権は、日本は主張する。

自衛権は、日本は主張する。日本は、自衛権を

主張する。日本は、自衛権を主張する。日本は、

自衛権を主張する。日本は、自衛権を主張する。

自衛権を主張する。日本は、自衛権を主張する。

自衛権を主張する。日本は、自衛権を主張する。

自衛権を主張する。日本は、自衛権を主張する。

自衛権を主張する。日本は、自衛権を主張する。

2. 日本が所収の二つは憲法上の問題であり、
11) 憲法上の問題として、
良心の一次の問題として、

合意が得られず、我が国要の、
日本国政府は、同政府が、
その旨を指導する、
す。1. 前述のとおり、
米側の合意が、
否か、
施政権の一部は、

この明確な意思表示は、
11) 別途の協定の行方、
12. 合意が得られず、
これは、
岸 外長、
2. 協定の目的、
の沖繩、
11) 中韓の「日本国」、
2. これは、
か、

開港の権利を認め、施設の存続を承認

（ 支那に認められた権利を説明した。従って、この権利は

（ 絶えず、中々手付かず。（昭：35.7.12. 竹谷一

（ 高橋局長）

（ Ⅲ 米の領土「日東国境」の近くは、日東国境に日

（ 本、中心として、内地地域を意味する。この中絶

（ 合子、中絶する。（昭：35.4.12. 竹谷一

（ 高橋局長）

（ Ⅳ 竹谷局長の上述の通り、越境は、軍事基地の

（ 設置は、施設の権利を認め、国際政治上の

（ 開港の権利を認め、施設の存続を承認

（ 米、中絶する。（昭：35.7.12. 竹谷一

（ 一見、法律上の、政治的、
（ 中絶する。（昭：35.7.12. 竹谷一

（ 米、中絶する。（昭：35.7.12. 竹谷一

（ Ⅲ 米の領土「日東国境」の近くは、日東国境に日

（ 本、中心として、内地地域を意味する。この中絶

（ 合子、中絶する。（昭：35.4.12. 竹谷一

（ 高橋局長）

（ Ⅳ 竹谷局長の上述の通り、越境は、軍事基地の

（ 設置は、施設の権利を認め、国際政治上の
（ 日、中絶する。（昭：35.7.12. 竹谷一

場合、係約第4條の所謂「隨時協定」の原則が適用される。

着、場合により、協会の内容として協会の福祉のあり方を

電に換付したものを、^{と=3}~~中から取り出す~~後者の暫減の節

第2場600-2 附件の内容を説明するところ。29

桌心。將來武力攻取，大端皆在平壤，以爲民

「福祉」の「99年」を「協賛」の日として定めた。

これは根拠の打神繩へ、火薬は否定工作に。

(昭: 15.5.4 滝井—藤山)

iii). 白灰, 加冲绳属民 a 是 x 米国也排年 30 福

在 9 县作的内容上以说，病气入于下者五日中。

に連れ $2 < 3 = 4$. 4の隣必要とあるは病院領上出た

2. 富糧寺救援物資已送達，其他不暇。

峯や谷の如く、その根拠として、潜在主権とされ

two

病人が又客に成り、自他隊の記者部の人々が居る。

この二つの文は、平和の誓いの文章である。

「故に、この憲法の標榜は、これではないと説明す。

水。 (BB: 35.4.11, 户叶一藤山, 昭: 35.5.4,

澆井一林(安岸)

(iii) 條約上の支那の条文が正確に「福祉」の語を

あることと、合意記事録の日本米双方の発言中心である。

福祉の差異について、前者は、一般的、全般的な存在

である。後者は、武力行為の発生による、発生

の脅威がある場合、具体的な問題となっており、

これは、一般的、全般的な存在の補正であり、当然

然、考えようとしておられる。

(昭和35.5.4、滝井一高橋印次郎)

(14) 合意記事録の日本米側発言の中心は、協定の

内容、日本側発言とは異なり、明記してある。

したがって、合意記事録の協定の中心は、これである。

Xの協定の内容は、限定されたものである。協定の中心は、

この米側の戦時、戦時行動の中心は、日本側である。

この行動の中心は、日本側である。日本側は、この中心を、

は、この中心を、日本側である。日本側は、この中心を、

断るべき問題である。日本側は、この中心を、

また、この中心は、日本側である。日本側は、この中心を、

協定の中心は、日本側である。日本側は、この中心を、

この中心は、日本側である。日本側は、この中心を、

この中心は、日本側である。日本側は、この中心を、

この中心は、日本側である。日本側は、この中心を、

4. 450

11. 米國は沖縄を米軍に委任し、米軍は之を統治す。

米軍は、之を招致し、平和條約を締結す。

是は、米國の行政の權を行使す。

米國は、之を治め、之を平和に導く。

要は、之を平和に導く。

(附: 35. 4. 1. 戸一、島橋南、岸)

沖繩派兵問題に關する政府答弁一覽

「武力攻撃がある場合には、日本は沖縄に出兵ができるということですか。」

(滝井委員 衆・安保特別委)

三五・五・四・28号23ページ)

「もしも、アメリカの政府の方から、日本の自衛隊を沖縄に置いてくれというような要請を受けた場合に、それに対してどうゆうふうなお考えをお持ちになりますか。」

(戸叶委員 衆・安保特別委)

三五・五・四・28号26ページ

「日本の自衛隊が沖縄で戦斗行動をとる、とらないにかかわらず、——とらないというような場合でも、もしも、アメリカが、日本の自衛隊を向こうに要請する方が沖縄の防衛のために必要な措置だと考えて、もしそう言われたときには、この合意議事録からはどうゆうふうになるわけでございましょうか」

(戸叶委員 衆・安保特別委)

三五・五・四・28号27ページ)

「いやそういうことではございません。沖縄の島民の福祉のためにやることでありますから、病人を内地の病院に移してしまおうとか、そうゆうようなことをわれわれは考えているわけでありまして、出兵するとうような、そんなことは考えているわけじゃございません。」

(藤山外相 全上ページ)

「今の自衛隊を置いてくれとか、自衛隊を出してくれというのが、一体どうゆう目的で、どうゆう意味で出してくれというのかわかりませんが、……先ほど滝井委員の御質問は、衛生隊があそこにおけるところの病人やけが人を収容するために出かけていくという場合はどうかという意味におきまして、そういう行動は、いわゆる自衛隊の海外派兵という觀念には入らない、しかし、今お話のように自衛隊を何か海外派兵のような意味に、そこにおけるところの軍事的行動のために出てくれというようなことであれば、もちろんお断りしなければならぬ問題であることは、言うを待たないと思います。初めの問題につきましても、私は一応法律解釈として申し上げておるのでありますが、そのときの事態を見なければ、直ちに、いつでも自衛隊の衛生隊を出してくれといえ、すぐ二つ返事で出すということを申し上げているわけではございません。」

(岸総理 全上26ト27ページ)

「合意議事録からは別に日本が出さなければならぬ義務は一つもございませんし、直ちに戦斗作戦行動のために出すのではないが、何か防衛のために自衛隊を出せということになればこれは、私は明らかに軍事的目的で自衛隊を出すということになるだろうと思います。すぐ戦争作戦命令を受けて、そういう命令のもとに出るわけじゃありませんけれどもそういう防衛のためにあそこに出動するということがあれば、明らかに事態いかによつては戦斗作戦行動をしなければならぬ。そういう場合は、もちろん、これは日本の憲法の建前からいうと、断る。そういうことをこの合意議事録で何ら義務づけられるものではないと思います。」

(岸総理 全上ページ)

(承前ページ)

「そうだとするならば、この合意議事録の「協しこれらの諸島の防衛のため必要な措置を執り、」という、この「これらの諸島の防衛のため必要な措置」というものを書かなければ、わかるのです。ところが、協議して、またこれをとるというのですから、何か日本と相談をして防衛のために必要な措置をとるのだからと私たちは続まざるを得ないわけで、これを伺っているわけです。」

(戸叶委員 衆・安保特別委)

三五・五・四・二八号 二七ページ

「それは、先ほど来申し上げているように、もちろん、アメリカが施政権を持ち、あそこに軍隊を持つておりまして、あそこにおける武力攻撃があつた場合に、自衛権の発動としてこれを防衛すべきことは、これは合意議事録あるうがなからうが、当然やることでございます。しかしながら、やるということとを——非常にわれわれが関心を持つており、われわれが潜在主権を持つており、そこにいるところの住民は日本人であるという観念から見まして、アメリカが日本に対して、そういう場合には必ずこの防衛についての必要な措置を全力をあげてとるといふ決意を宣明するということが、私は、沖縄に対するわれわれの関心からいっても、意味があると思います。書かずにおいても当然やれるのだ、これは自衛権というものをやることは当然でございますが、必ずやるということ、そういう特殊の立場にある日本に向かつて明らかに声明しておくということは、私ども、非常に意義のあることである、かように思つております。しかしながら、それによつて何ら日本が義務を負うものでなければ、日本が何かそれに協力して自衛隊を出さなければならぬという事態がくるものでは絶対ないと私は信じており、また、ないのであります。」

(岸総理 全上ページ)

「……第三十回国会、昭和三十三年十月二十三日でございました。私いろいろ沖縄の問題についてお尋ねしたわけです。というのは、当時、総理や法制局長官は、沖縄を共同防衛地域に入れても憲法違反じゃないということをおっしゃつておつたのです。……当時……少くとも憲法違反ではないんだ、沖縄を条約適用地域に入れてもいいんだ、共同防衛地域に入れてもいいんだとおっしゃつておつたのに、今度は第五条から沖縄、小笠原をはずしてしまつたというのは、一体どういうわけだろうか、こういうお尋ねをしているわけです。」

(石橋委員 衆・安保特別委)

三五・五・七・三〇号 一三ページ

「……日本が持つていているというのは、観念的な潜在主権だけ、そういう沖縄を、日本とアメリカの

「……少くとも、防衛ということが、日本が自国を守るという立場において施政権の一部を返還される、そういう意味ならば、必ずしもこれは、憲法違反の問題にはならない、ということは確かに申し上げました。したし……現在においては沖縄の施政権が返還されておらないわけでありまして。そういう状況のもとにおいて沖縄をいわゆる共同防衛地域とすることは、憲法上から問題がある。あるいは、個別的自衛権の問題からも問題がある。そういうわけで、この沖縄、小笠原を除いた、かような考え方をとられる、かように考えております。」

(林法制局長官 全上ページ)

「……沖縄、小笠原の問題でございますが、日本は潜在的な主権をもつておる、従つて自衛権も私

何らかの取りきめによつて、日本の自衛隊が行つて共同防衛することは、憲法違反なのか、違反でないのか。」

(石橋委員 衆・安保特別委)

三五・五・七・30号13ページ)

「……少くとも沖縄に武力攻撃が発生した場合には、日本国政府は何らかの措置をとるわけです。『同政府が島民の福祉のために執ることのできる措置を合衆国とともに検討する意図を有する。』というわけです。アメリカがこれを承認しているわけです。そうしますと、実際に武力攻撃が沖縄にあつた場合を仮定してこれはできているわけです。そういう場合に、いわゆる完全に包括的な施政権は、全部日本に返しはしないけれども、日本の自衛隊が自衛権を行使してもよろしい、どうぞ沖縄に来て自衛権を行使して下さい、この協議の結果アメリカがかりに認めたら、それを実行に移すことは憲法違反ですか。違反じゃないですかと聞いています。」

(石橋委員 衆・安保特別委)

三五・五・七・30号16ページ)

は潜在的にはあると思います。しかし、あくまでこれは潜在的でございませう。これが、顕在的はならなければ、やはりいけない。かりに日米間で条約を結んで、日本の施政権の一部——と申しましても、何の施政権でもいいというわけではございませう。つまり、防衛という問題、あるいは、そういう直接に防衛すること、日本の本来の自己の自衛権をもつて守るべき地域であるということをアメリカも認めた、そういう条件が成立すれば、必ずしも憲法違反とは言えないだろう、そういう意味を申し上げておるわけでございませう。……現在の平和条約第三条がある限りは、アメリカは全面的な施政権を持つておるわけでありませう。この状態が変らない限りは、日本の主権は潜在的であり、自衛権も潜在的である従つてそういう状態のままで日本の自衛隊が沖縄を守るということは、やはり憲法上認められない。」

(林法制局長官 全上13—14ページ)

「それは、この合意議事録と直接の関係ではないと私は思いますが、つまり別途協定で、たとえばアメリカは施政権のそういう部分を日本に返すと約束をした、そういう場合においては、必ずしも憲法違反ではない、そういう事態は起こります。この合意議事録でどうなるという問題ではございませう、別途そういう協定が行われた場合に、その協定の効力としての問題でございませう。」

(林法制局長官 全上ページ)

「これは今の点は、合意議事録の問題ではないと思います。というのは、合意議事録で、日本の方は『島民の福祉のために執ることのできる措置』云々といつて、福祉だけをあげております。そうして、アメリカの方は、防衛のために必要な措置をとること、かつ島民の福祉ということを申し上げておられて、この福祉というのには、防衛に関する措置というものが入っていない、これは合意議事録の福祉というものの意義でありまして、従つて、これの話し合いでもつてそういうことをきめるということはないわけでありませう。しかしながら、先ほど来申し上げておるように、アメリカとの間に一つの協定かなんを作つて、そうしてアメリカが持つておるところの

いわゆる全面的に持つておる施政権の一部について
いわゆる防衛に関するものを、日本の方の主権の発
動を認めるというはつきりした取りきめができるな
らば、その範囲内において憲法違反でない、こうい
うことを申し上げます。」

(岸総理 全上 17 ページ)

「これは石橋さんの研究されたとおり、この条文
この議事録等から出てくるものはお説のとおりであ
ります。それが私が先ほど来申しておるように、こ
れは理屈じやない、私どもの国民感情として、やは
り感情もこれは大事なことです。それから、そういう際
に感情をも入れた一つの考え方が出てくるかどうか、
それはそのときでなければわからないということ
を実は申し上げたのです。いま理論的に言われる限
りにおいてお説のとおりでございます。」

(佐藤総理 全石 21 122 ページ)

「……やはりこれは理論的に考えていかなけれ
ばならない重要な問題なわけです。私たちも国民感
情として、そういう緊急な事態においては持つておけ
ない、そういう気持を十分に持つておる、そういう
ことは理解できるわけです。しかし、そういういつた気
持があるうとも、日本の自衛権を發動させるとい
うことは不可能なんだ、考える余地はない、だからこ
そ安保条約が、締結された際にも、相互協力及
び安全保障条約についての合意された議事録として
もし、これらの諸島に武力攻撃が発生した場合には
日本国政府は、同政府が島民の福祉のためにとるこ
とのできる措置を合衆国とともに検討する意図を有
する、こういうふうに議事録の中にとどめておける
わけです。島民の福祉のためにとらるべき措置とい
うのは何か、これもずいぶん議論をしたわけです。
これはあくまでも自衛隊の出動といったような軍事
的行動ではないと何度も確認されておるわけです。
それはせいぜいのところ病人を内地に連れてくると
か食糧を送るとか、その意味合いの住民の福祉のために手を差し
のべるということなんだ、それ以上はできないとい
うのが従来の政府の一貫した態度であるし、また、そ
うなければ非常に危険な様相を持つておるわけだ。
だから、かりそめにもそういう事態になつたときに
情勢いかんによつては自衛隊の出動もあり得るかの
ごとき印象を残されることは非常に問題を大きく発
展させますので、そこで私は再度お尋ねしているわ
けです。自衛隊の発動、自衛隊の出動、そういうた
軍事行動は、いまのように施政権をアメリカが完全
に掌握している限り不可能であるということに変わ
りはないと思うのですが、いかがでございますか。」

(石橋委員 衆・予)

四〇・五・三一・21号 21 ページ

「……ここで一つお聞きしておきたいと思うことは、沖縄が攻撃を受けた場合に、日本の自衛隊がまさかここに出動するという場合はないと私は思うけれども、そう解釈してよろしゅうございますか。」

(勝間田委員 衆・予)

四〇・五・三一・21号8ページ

「……これは、御承知のように施政権を持つておるアメリカが第一次的にこの防衛に最善を尽くすという、これはおわかりだと思います。わが国がやるにいたしましても、わが国は施政権をもつておりませんから、そういう考え方でこれに処していかなければならぬ。ただいま言われるように、日本はそういう場合にどうするのだ、こういうお尋ねが非常に簡単な、端的な表現でと言われるが、これはなかなかむずかしいことだと思います。むしろそういうことも含めて十分検討しておく必要があるだろう、かように私は思いますが、ただいまいきなり出されましてもちよつとすぐ即答いたしかねる、こういう問題でございます。」

(佐藤総理 全上ページ)

「……沖縄の地域というのは米国が立法、司法、行政の三権を持つておりますので、また三権をもつておるといふことは同時にその責任を持つておりますので、その責任を遂行する措置等はあげてアメリカがその責任を負う立場にあるわけでございます。」

(高辻法制局長官 全上ページ)

「いわゆる法律的には法制局長官の答弁でおわかりだと思えます。安保条約とは別に、島民百万、これは日本国民だ、こういう状態ですから、そういう事態になれば日本の国として十分検討を要する。さらに私ども考えを新たにする場合もあるだろうし、あるいはそのまま法律上の義務だけで過ごす場合もあるだろうし、もう少し研究してみたい、かように私が先ほど申し上げたのはその点であります。これはいわゆる理論、理屈だけの問題ではない。だからその点を十分御理解をいただきたいと思えます。」

(佐藤総理 全上ページ)

(承前)
「……いまの自衛隊の派遣という問題を総理のようにならうという拡大解釈を持つて扱うということについては、私は絶対に了承はできない。むしろ「沖縄県民の」生命、財産を守るがゆえに、現在の大きくいえば、北ベトナムに対する爆撃をやめるという方針はもちろんのことであるけれども、施政権の返還なり、あるいは領土の返還なり、あるいはまた、

「……先ほど来言われました沖縄が攻撃をされたときにどうするか、こういうお尋ねに対しまして、いわゆる条約上の問題ではございません、またアメリカ自身が施政権を持つておる、そういう状態だから、アメリカがこの沖縄の島民の安全については全責任を持った処置をとるだろう。しかしながら、日本政府は、百万の島民、これは、日本国民だ、こう

日本人の生命、財産に対する日本の当然の権利を私たちは主張すべきで、これを自衛隊の出動の一つの基礎にしていくなどという態度というものは、私はそう軽々にやるべきものでは断じてないというように思います。しかし、もし、佐藤総理がそういうことを言われて、自衛隊の出動などという問題になつてくれば、当然沖縄に対する攻撃は日本の参戦という問題にまで発展すると私は思う。……」

(勝間田委員 衆・予)

四〇・五・三一・21号817

ページ)

「……特にこの沖縄の場合、ベトナム作戦の中心的な基地として使われておりますので、情勢のいかによつてはどのような形で報復攻撃が加えられるかもわからない、そういう心配のあることは事実なわけであります。そういう事態がもしあつた場合に日本の自衛隊はどうするか、勝間田議員はこういう質問をしたのに対して、総理の答弁によりますと、いかにも出動ができるのかときお答えが最初あつたわけですが、あとでお気づきになつて、その時点で考えるというふうに釈明をされておられたわけですが、私は、その時点で考えるといつたような問題ではないと思うのです。……総理のお答えによりますと、その時点で考えるということは、自衛権が及ぶ場合もあり得るのかとき答弁に聞えるわけですが、もし、日本の自衛権が沖縄に及ぶということになると従来もそれは明らかに憲法違反だというふうに、特に岸内閣によつて答えられておるわけですが、若干変化があるように思われるわけですが、念のためもう一度お尋ねをしておきたいと思ひます。」

(石橋委員 衆・予)

四〇・五・三一・21号21ページ)

「福祉」の内容

「〔合意議事録で〕武力攻撃が起きたときに、日本の国が島民の福祉のためにとることができるといふ、この福祉というのは具体的に何をさすのですか

いう立場から、場合によりましたらいろいろな考え方をするだろうということを申した。別に自衛隊を直ちに派遣するとか、こういう結論を出したわけはございません。そのときになつて日本国民らしき行動をする、こういうことだけをこの席において保留したのである。だから保留して、たゞいま絶対に出る行くとか出て行かないとか、かような結論を出したわけではない。日本国民としては、そういう事態に対しては、みずから考えるものもありましようから十分検討しておきたい、こういうことを実は申したのであります。その点に誤解のないように願つておきたい。……」

(佐藤総理 全上9ページ)

「だからこそ、そういう誤解がないようにと私は二回申し上げたのでございます。いまの理論をとやかく言うのじやない、日本民族として同じ沖縄の住民に対して、私どもはほつておけないような気持ちがあるのだ、これは、だから理屈の問題じやないのだ、そういう点でまた別な考え方もあり得るでしょう、こういうことを申したのであります。だからいふゆるこの安保条約とか、あるいはたゞいまの施政権の問題だとか、これはもう理論的にははつきりしておる、しかしながら、はたして沖縄住民がたゞいまのように攻撃をされる、そうして日本民族、日本国民としてのこの潜在主権を持つ私どもがそういうものをはたして見殺しにしてよろしいのか、何もしないでいいのか、そういうことは、そのときになつて国民とともに考えてみる必要があるんだ、そういうことを実は私は申したのである。これは誤解のないように願ひますよというのを言つたのは、だから理論ではないのだ、理屈では非常にはつきりしておるのです。しかしながら、理屈でなしに別なものがありはしませんかというのを実は申し上げた。」

(佐藤総理 全上ページ)

「武力攻撃が起きました際に、日本人である島民の生活全般に対してわれわれが心配をいたしますことは、これは当然のことだと思ひます。その場合

(戸叶委員 衆・安保特別委
三五・四・一一・16号28ページ)

「……真に、われわれの同胞、沖縄八十万を守ろうとするならば、ただ言葉に、福祉を守ると掲げるばかりでなく、そのときにはこうするのだという日本国の総理としての、沖縄島民に対する安全を守る決意と愛情をここに示してもらわなければならぬと思う。」

「近代戦争そのまゝの姿がこの沖縄において発生した場合、そのところから住民の福祉を守り、生命を守る、こういうことであるならば、非戦闘員はすべて疎開させる、これ以外にはないだろうと思うがこの住民の福祉を確保するという、この条項の最大限の、最も効果的な方法は、そういうことも考えられるのだ、それを含んでおるのだ、こういうことをあなたは認められますか。」

(西村(カ) 委員 衆・安保特別委
三五・五・四・28号28ページ)

昭和四一年三月一〇日、参議員予算委員会会議録抜粋、稲葉誠一委員の質問に対しての総理大臣の答弁より、

に、福祉の内容についてはいろいろあると思います。あるいは病氣になつた人を内地に連れてくるというもの一つでございましょう。あるいは食糧事情等の問題もあるかと思ひます。いろいろそういう面において島民自身の福祉に貢献し得る問題が起こつた場合に、いろいろな形で出て参ると思ひますから、そういう問題については協議をして、そうして島民の福祉に関しては、できるだけ日本政府として十分な処置をとつていきたい、こういうことでございませう」

(藤山外相 全上ページ)

「……決して病人だけをこちらに連れてくれば、それでもつてわれわれの福祉を守る任務は終わるのだ、あるいは、食糧を送るだけでもつてそれで終るのだというような、限つた考えを持つておるわけじやございません。できるだけのあらゆる努力をするつもりでございます。」

(岸総理 全上ページ)

国務大臣(佐藤栄作君)……沖縄が攻撃された場合に、それじやこれをわれわれはみすこしていかうかと、沖縄に対する潜在主権もあるし、沖縄住民はわれわれの同胞だかういふ立場でございすから、それは私もただ随をこまねいて見ておる、経済協力ばかりだと、かういふようななまやさしいものじやないと私は思ひます。だから、そういう意味で、これに対して第一義的にアメリカがこれを守るにいたしましたも、私どもも沖縄同胞のために、日本人らしくその一体としての防衛の任にあたるかういふことは考えられるだろう。それはアメリカと私どもが十分相談することだ、協議を逃げることだ、これを協議なしに、

昭和四一年三月一日 鈴木強委員の質問に対する
外務省条約局長の答弁より

これは日本だということでも飛び出すわけには
いかない。しかし、この希望を述べれば、必ず、
アメリカも私どもを入れてくれるだろう、また、入
れさすつもりでありますよ。そういうところがやつ
ぱり日本人らしきことをやると、かように私は思ひ
ます。その点はそれでいいだろうと思いますが、そ
ういふ場合に、その結果、日本がそれに防衛をし
たら、今度は日本が戦争に巻き込まれて攻撃を受け
ると、こういうことになるのじゃないか、こういう事
態を御心配のようですが、それはそのときになら
ないと、これは私わからないと、かように思います。

政府委員（藤崎万里君） 合意議事録の日本国全権
委員の発言は、「島民の安全に対し日本国の政府及
び国民の有する強い関心を強調したいと思う。」こ
ういふことがございまして、それで実際にやること
としては、「島民の福祉のために執ることのできる
措置を合衆国とともに検討する意図を有する。」と
こういうことでございます。しかし、この趣旨は、
これのもう一歩進みまして、福祉以外のことにつ
いて何かしたいと、しようということを禁ずる趣旨ま
でも含むものじゃない、こういうふうに解釈すべき
ものでございまして、きのうの発言でもございましたが
沖縄は日本の領土であり、沖縄の住民は日本国民で
ございますので、これに対して武力攻撃が起つた場
合には、当然日本の自衛権の及ぶ範囲であると。し
かし、それに基づいてすぐ行動をとれるかというと
そうではなくて、これは日本国との平和条約の第三
条に立ちかえりまして、ここで、アメリカの施政権
のもとにございますから、その容認なくして日本が
かつてな行動をとるといふわけにはまいらない、こ
ういふふうの前々から答弁いたしておるわけでござ
います。

NEW YORK TIMES
MAR 21 1966

OKINAWA IS HUB OF WAR TRANSIT

U.S.-Vietnam Traffic Keeps
Kadena Air Base Busy

By ROBERT TRUMBULL
Special to The New York Times
KADENA AIR FORCE
BASE, Okinawa, March 20—
With 14 huge planes waiting
on the ground and 10 more on
the way, it was just an average
Sunday afternoon at the Airlift
Command Post here.

A take-off or landing every
20 minutes around the clock
has been routine at this West-
ern Pacific hub of United
States military air traffic since
the build-up in South Vietnam
last summer.

The quiet movements of six
or seven men in the command
post room near the runway
gave little idea of the enormous
traffic being guided through
this key transit point on mili-
tary air lanes between the
United States and Southeast
Asia.

"We've just got an O.K.
from Travis Field in California
to divert a plane coming in
from Cam Ranh Bay in South
Vietnam," said Capt. L. L. Kel-
sey of Greeley, Colo., and the
603d Military Support Squad-
ron here. "Instead of taking it
here, we will send it to Naha
to pick up the Gemini 8 space
capsule and take it to St.
Louis tomorrow."

Center Keeps Busy

"Also in the 10 minutes since
you walked in," he added, "we
have cleared three flight crews,
talked to Japan three times, ap-
proved two departures and
picked up six inbound planes."

Data gathered in continual
radio-telephone conversations
with distant bases and with
planes in the air hundreds of
miles away were recorded in-
stantly on a huge ruled chart
that covered the wall.

In the first 19 days of this
month, the base handled 19,039
passengers and loaded or un-
loaded 3,964 tons of cargo.
Since Jan. 1 it has averaged
about 1,000 passengers and 200



The New York Times March 21, 1966
HUNTING VIETCONG: Major operations have been staged against guerrillas near Quangtri (1), Tuyhoa (2) and camp at Cuchi (3).

tons of cargo a day. On one day
last week it had 1,700 pas-
sengers and in the last 24 hours
it has handled 278 tons of
cargo.

Names of South Vietnamese
posts like Tansonnhut, Quinhon,
Nhatrang and Vungtau figured
matter-of-factly in talk that
went around the room. One tele-
phone was in contact with Yo-
kota Air Base in Japan, while
someone else was talking with
Clark Field in the Philippines.

"When they call Okinawa
the keystone of the Pacific,
they're telling the truth," said
Lieut. Col. William R. Cook, di-
rector of information at Kadena.
"At Kadena we pump more
petroleum in a month than any
two other U. S. Air Force bases
in the world."

Besides five military types of
cargo planes, a half-dozen com-
mercial carriers under contract
to the armed forces send their
planes through Kadena to Viet-
nam.

But even so vast a base as
this is being heavily taxed by
the effort in Vietnam. Its two
runways, 12,000 and 9,000 feet
long, are in constant use and
planes are parked in taxiways
that covered the wall.

Transporting cargo and per-
sonnel to and from South Viet-
nam is in addition, of course, to
Kadena's function as the princi-
pal base of United States com-
bat air strength in the western
Pacific.

First Elected Ryukyu Executive Buys U.S. Hopes for Stability

NEW YORK TIMES
MAR 24 1966

Matsuoka's Inaugural Viewed
as Step Toward Autonomy
for Million Islanders

By ROBERT TRUMBULL
Special to The New York Times
NAHA, Okinawa, March 23—
With the inauguration of a
wealthy conservative politician
as the first indirectly elected
chief executive of the Ryukyu
Islands, United States authori-
ties are looking forward to
nearly three years of political
stability.

Selho Matsuoka, a 68-year-
old power company president,
had served as chief executive
by appointment of the United
States military government
here.

He was elected to the same
position by the predominantly
pro-American Legislature on
March 18 and was formally in-
augurated yesterday. The next
elections will be in November,
1968.

"I know Americans better
than they know themselves be-
cause I've been a servant in
their houses," the Okinawa
leader remarked in an interview
today. He had financed his
education in the United States
at several universities, partly
by working as a houseboy and
cook.

Worked in Fields

Like many Okinawans of poor
families, Mr. Matsuoka emi-
grated to Hawaii as a boy and
worked in the sugar cane and
pineapple fields for 75 cents
a day. After returning with a
degree in electrical engineering
he rose to wealth and leader-
ship.

Mr. Matsuoka's election is
considered by Americans to be
a step toward greater autonomy
for nearly a million Ryukyans.
However, this advance falls far
short of desires voiced by a
majority of the islanders, who
have been under American mili-
tary government in some form
since Okinawa was captured
from the Japanese in 1945.

The top authority in the
Ryukyus is still the commander
of United States forces, now
Lieut. Gen. Albert Watson 2d.
Immediately above Mr. Matsu-
oka's Government is the United
States Civil Administration of
the Ryukyu Islands. This or-
ganization is headed by a civil-
ian, Gerald Warner of the State
Department.

"The U. S. administrators
should be just a small advisory
body instead of running our
Government for us," Mr. Matsu-
oka declared today. "But from
the American point of view I
can see how it is desirable to
keep civil and military jurisdic-
tion in the same hands."

Mr. Matsuoka appeared to be
out of sympathy with a Ryuk-
yu movement for the rever-



Selho Matsuoka.

sion of civil administration to
Japan while the United States
keeps control of military bases.
The Ryukyus were left under
United States authority by a
1952 peace treaty for the de-
fense of the Far East.

Mr. Matsuoka's inauguration
coincided with an outburst of
political violence on the remote
island of Ishigaki, in the south-
ern Ryukyus.

One of Mr. Matsuoka's first
acts was to send 150 policemen
to the island by air to quell
rioting by supporters of a left-
ist candidate for local office
who was declared beaten by
400 votes after 2,000 ballots re-
portedly disappeared before the
count.

Today 3,000 rock-throwing
rioters injured 27 of the police-
men, none seriously. It was the
third day of rioting on Ishigaki,
which is about 120 miles south
of Naha.

NEW YORK TIMES
MAR 27 1966

BIG OKINAWA BASE SUPPLIES VIETNAM

Four Computers Are Used to
Check on War's Needs

By ROBERT TRUMBULL
Special to The New York Times

NAHA, Okinawa, March 22 —Almost anything needed for Americans to fight the war in Vietnam, from shoelaces to giant tractors, can be found on this island in what has become the world's largest military supply depot.

So much material is piled up at the United States Army's 695-acre Machinato service area, a few miles north of this port city on the East China Sea that it takes four computers to keep track of it all.

"We put as many as 100,000 requisitions into a computer in a single operation," said Col. Theodore W. Archer of Scarsdale, N. Y. Colonel Archer, a sandy-haired man with a neat mustache, is controller of the United States Army's Second Logistics Command, which runs this huge storage base.

Vast Computer Center

"Our computer center, which is as large as any in the United States, tells us whether an item requested is in stock and, if so, where it is," he continued.

"If we don't have it, the computer pushes out a requisition for supply action in the United States."

The Machinato supply base is one of numerous valuable United States installations on this Japanese island left under American control for defense of the Far East under the 1952 peace treaty.

The expensive panoply of war extends along the island's principal highway behind a steel mesh fence for about two miles in deep ranks of trucks, tractors, tanks and miscellaneous machinery. A collection of field ambulances for Vietnam marked with red crosses is a grim reminder of the war's human toll. "Countless metal barrels of

oil cover space enough for a small golf course. Millions of other items lie in seven great concrete warehouses each 1,000 feet long and containing 200,000 square feet of floor space. An eighth warehouse is slightly smaller. More are under construction.

Colonel Archer estimated that the 361,000 types of items stored here cost American taxpayers \$250-million — approximately four times the annual revenue of this American protectorate with a population of nearly a million.

Shipped by Air and Sea

The war equipment assembled here goes from Naha to the Vietnamese fighting fronts by air and sea through Quinhon, Nhatrang, Camranh, Vungtau and Saigon. The ships are loaded and unloaded by the "roll on, roll off" technique of putting packed trailers aboard the vessels. The Second Logistics Command now has 2,800 such trailers here or in Vietnam or at sea in between.

Last month "Second Log" dispatched 167,000 tons of material to South Vietnam by sea and six million pounds of high-priority items by air from here.

All this activity keeps the seven military piers of the port of Naha occupied while three or four more ships frequently wait outside for a berth to be vacated. One vessel calling here this week unloaded 1.2 million cases of C rations—about enough to feed all the American troops in South Vietnam for a week.

Shipped by Air and Sea

The War equipment assembled here goes from Naha to the Vietnamese fighting fronts by air and sea through Quinhon, Nhatrang, Camranh, Vungtau and Saigon. The ships are loaded and unloaded by the "roll on, roll off" technique of putting packed trailers aboard the vessels.

The vast build-up for Vietnam employs about 5,000 Okinawans to work with about 4,000 uniformed Americans in the Machinato service area. Currently 1,250 are engaged in repair and maintenance shops at the storage base.

Work at the Machinato depot goes on around the clock seven days a week. And the bulldozers that recently swept away a prominent hillock that had been an age-old landmark on Okinawa's western shore are gouging and smoothing additional land to make room to store still more war material for Vietnam.